

2020年度 自己評価報告書

2021年3月18日

学校法人 北海道キリスト教学園 湖畔幼稚園

1. 本園の教育目的

「神様の愛と恵のもとに生かされている喜びを分かち合う」

神さまが愛をもって造られた世界は、恵みに満ちています。特に神さまのかたちに造られた私たちには神さまの限りない愛が注がれています。その神さまの愛と恵みに出会い、感動と喜びを体験し、自分自身がかげがえのない人間として生かされていることを知る時、他の人もまた同じように尊い命に生きていることに気づくのです。互いにその喜びを分かち合い、共に生きることを具体的に体験していきます。園生活を通して、神さまの愛のもとで保育者や友だちと喜びを共にし、自分を愛し、他の人を愛し、自然を大切にする、調和のとれた人間性の教育を目的とします。

2. 本園の教育目標

- ・子どもが、自分自身が大切な存在として受け入れられていることを感じとり、自分自身を喜びと感謝をもって受け入れることができるようになる。
- ・子どもが、イエスさまを身近な存在として知ることを通して、見えない神さまの恵みと導きへの信頼感を与えられ、イエスさまと共に、日々を歩もうとする思いを与えられる。
- ・子どもが、自分と他の人との違いを認めると共に、違いを認めつつ一緒に生活するための努力ができるようになる。
- ・子どもが、こころを動かし、探求し、判断し、想像力をもち、創造的に様々な事柄に関わるようになる。
- ・子どもが、私たちの生きる自然や世界を神様の恵みとして受けとめ、自然や世界の事柄に関心をもち、自分たちのできることを考え、行うようになる。
- ・子どもが、してはいけないことをしようとする思いが自分の中にあることに気づき、そのような思いに抵抗することができるようになる。

3. 本年度の重点目標

- 1, 今年度の保育の年主題聖句『喜びと平和とであなたがたを満たす。ローマ人への信徒の手紙 15章 13節』より、年主題『こころが満たされる』に基づき、神さまに無条件に愛されている一人ひとりであることを感じながら、安心して園生活を送り、自己肯定感が育まれる保育を目指す。
- 2, 今年度のユネスコスクールのテーマである『未来の力〜心と体のすくすくプロジェクト』を通じ、未来を担う子どもたちの心とからだの豊かな成育のため、質の高い教育を目指し、教師の学びや園におけることもちの健康で安全のための環境づくり、運動あそび等の充実化を図る。
- 3, 年齢別のクラス編成であるが、現在取り入れている異年齢の活動をさらに深め、子どもたち同士の豊かな関係性を育む。
- 4, 現代の子育て事情の中で育児に悩む保護者に寄り添い、育児相談や子育て支援を積極的に行うため、子育て支援事業の働き（未就園児クラス、預かり保育、園開放）を充実させる。
- 5, 災害や緊急事態時に備えて危機管理マニュアルを見直し、教職員間で共通理解をし、意識の向上に努める。

4. 教職員による評価項目に対する自己評価

※ () 内は前年度数値

評価項目	取り組み状況	評価
I. 保育の計画性	<ul style="list-style-type: none"> ・年度始めに、新教育要領の内容を学び、それに基づいて今年度の保育をどのように展開していくかを話し合っている。 ・全体で年間計画を立て、各学年で月案、週案、日案を立てるが、リーダーがリードし、その時々の子どもの興味・関心に合わせて臨機応変に計画することができた。 ・キリスト教保育に基づく園が目指す子どもの姿のイメージを互いに共有するように努めた。 ・感染拡大防止対策の観点で密閉・密集・密接を避けるため、これまでの園内自由に行き来することを避けることとなったが、ホールでの自由あそびの組み合わせを各学年で調整し合ったり、みんなの時間や合同礼拝を分散したり、満3歳児が他の学年に加わって活動するなど、異年齢の活動も工夫して行うことができた。また、子どもたちがじっくりと遊びや活動に取り組むことができた。 	3. 6 (3.5)
II. 保育の在り方・幼児への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育の様子や子どもの様子を教師間で報告し合うよう心掛け、日々の園生活の中で、子どもたち一人ひとりが受け入れられ、安心して生活できるように、配慮した。 ・クラス担任だけが一人でクラスの子どもたちを保育するのではなく、全教職員で全員の子どもたちを保育しているという思いで、一人ひとりを見つめ、その子の良いところを認め、伸ばすよう子どもの様子を教職員間で話し合うよう努めている。 ・行事について、その持ち方のみならず、根本的な取り組みの形においても検討を重ね、保護者の理解をいただきながら、子どもたちの満足感・達成感のある取り組みを行うことができた。また、クリスマス会では、全学年が一緒に行うことを避け、各々の開催となったが、子どもたちの主体的な取り組みの中で、これまでより良いものにする事ができた。 ・ユネスコスクールの取り組み『未来の力～心と体のすくすくプロジェクト』において、リモートでの研修を積み重ね、健康で安全のための環境づくり、運動あそび等の充実化を図ることができた。 ・感染症対策も加えた危機管理マニュアルを見直し、教師間で確認し合い、安全な園生活を目指した。 	3. 6 (3.6)
III. 保育者としての資質・能力・良識・適正	<ul style="list-style-type: none"> ・教師間の連携を取り、チーム力を高めて保育にあたるようにする。 ・保育には教師自身の人間性が重要であるという認識のもと、日頃から自己研鑽に励む努力をしている。 ・日頃から読書、新聞を読む、芸術に触れるといった感性を豊かにすることを実践するよう心がけている。 	3. 8 (3.7)
IV. 保護者への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの園での様子は連絡ノート、お便り、ブログ、また、面談や電話などで連絡を密にするよう努めている。 ・保護者からの相談や質問などに対しても、園長・副園長などに報告、相談をして丁寧に対応するよう徹底している。 	3. 9 (3.6)
V. 地域の自然や社会との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅街に園が位置していることから、自然との関わりは少なく、外から自然物を持ち込んだり、近隣の公園に出かけたりしてきたが、感染症拡大防止の観点から、外部との接触を極力避けたことにより、お散歩などにでかけることが少なかった、また、地域に向けた活動全般を自粛したことにより、関わりの不足感から評価が低くなった。 ・長年続いている老健たいようのお年寄りの方とのふれあいも、相互のふれあいが困難となった。しかし、ムービーを交換するやり取りから、リモートでのふれあいが実現し、互いに励みや力となっている。子ども達にとっても優しい気持ちやいたわりの気持ちが育っていることを感じている。 ・「引き継ぎシート」を用いた小学校との引き継ぎはスムーズであり、個々の様子についても伝えやすい。 	2. 9 (3.1)
VI. 研修と研究	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の会場における研修会への参加は2回であったが、その他にオンラインやリモートでの研修が充実し、教師の質の向上を図ることができたことは評価できる。 ・研修会の内容が一部のものに偏り、多岐に渡った内容ではなかったことや日々おのおのが自ら研修することがなかなか難しいようであることで評価が低くなっている。 	3. 1 (3.0)

4：あてはまる 3：大体あてはまる 2：あまりあてはまらない 1：あてはまらない

5. 次年度以降に取り組む課題

- ・今年度の保育の年主題聖句『喜びと平和とであなたがたを満たす。ローマ人への信徒の手紙 15 章 13 節』より、年主題『こころが満たされる』に基づき、神さまに無条件に愛されている一人ひとりであることを感じながら、安心して園生活を送り、自己肯定感が育まれる保育を目指す。
- ・ユネスコスクールのテーマ『未来の力～心と体のすくすくプロジェクト』の 2 年目の取り組みにおいて、未来を担う子どもたちの心とからだの豊かな成育のため、質の高い教育を目指し、教師の学びや園における子どもたちの健康で安全のための環境づくり、運動あそび等の充実化を図る。
- ・年齢別のクラス編成であるが、現在取り入れている異年齢の活動をさらに深め、子どもたち同士の豊かな関係性を育む。
- ・現代の子育て事情の中で育児に悩む保護者に寄り添い、育児相談や子育て支援を積極的に行うため、子育て支援事業の働き（未就園児クラス、預かり保育、園開放）を充実させる。
- ・災害や緊急事態時に備えて危機管理マニュアルを見直し、教職員間で共通理解をし、意識の向上に努める。